

国語教育相談室

小学校

no.

74

光村図書

特集

「伝統的な言語文化」に親しむ

わたしと
ことは
生きものを扱う
角田光代

教材
研究

教材研究

はじめの歩

書写

いろいろな筆記具を
使って書こう

生きものを扱う

本や色紙に署名させてもらうことが多いのだが、その際「何か一言書いてください」と言われるのが、じつに苦手である。好きな言葉、肝に銘じている言葉はいくつかある。たとえば「グラスの縁に口をつけたら最後まで飲み干しなさい」、これは開高健の著書に出てくる言葉だ。でも、それを書くには躊躇がある。だって、私の言葉ではないのに、自分の署名のわきになんて、恐れ多くて書けない。ならば、自分でそのような言葉を考えればいいのだが、それができない。

人から言われた言葉は、それがどんなにいい言葉であっても、忘れてしまうことが多い。言葉ではなく、その人が私を助けようとしてくれた、力になろうとしてくれた、そのことだけを覚えていて、具体的な言葉自体は忘れてしまうのだ。けれど言葉とは本来、そういうものではないかと私は思っている。たいせつなのは言葉ではなく、言葉の背景にある、状況だったり関係だったりであるはずだ。おなじ言葉でも、何ひとつ響かない人もいるばかりか、怒る人がいたりもする。

書物に書かれた言葉は、幾度でも読み返せるぶん、話し言葉よりは正確に覚えやすい。件の開高健の言葉も、友人たちの生のそれより、真っ先に思い浮かぶ。それでもやはり読み手は、そこに書きつけられた言葉を、自分の状況やそのときの事情によって、万人に向けられたものではなく、自分にだけささやかれた一言として、受け取る。まるで友人の近しい言葉のように。開高健の言葉も、はじめて読んだとき私は打ちひしがれたが、この言葉が好きだと他人に話すと、「飲むのが本当に好きなんだね」と頓珍漢なことを言われたりもする。言葉は受け取り手によって意味もかたちも変える、生きものなのだと思う。

何か一言、を書けない理由はそこにある。自分が小説に書いた言葉をもしだれかがたいじなものとして受け取ってくれたならありがたいが、そうではなく、その人個人に向けた言葉を書くとなると思いつかない。まして色紙など、いったいだれに向けてどんな言葉を使うべきかもわからない。

「好きな言葉を書いてください」と言われたとき、真っ先に思い浮かぶのは、じつは「重版」だとか「ノーカロリー」といった日常のかつ实际的に「好き」な言葉だ。もちろん、そんなあんまりにも個人的な「好き」を、公に書きつけたりすることは、ぜったいに、ない。



©三原久明

神奈川県生まれ。早稲田大学第一文学部卒業。1990年『幸福な遊戯』で海燕新人文学賞を受賞しデビュー。1996年『まどろむ夜のUFO』で野間文芸新人賞、2005年『対岸の彼女』で直木賞、2006年『ロック母』で川端康成文学賞、2007年『八日目の蝉』で中央公論文芸賞を受賞。著書に『森に眠る魚』（双葉社）『くまちゃん』（新潮社）『水曜日の神さま』（幻戯書房）など多数。

CONTENTS

わたしとことば 生きものを扱う ————— 角田光代

特集 02 「伝統的な言語文化」に親しむ

- 提言 伝統的な言語文化を学ぶ意味 ————— 田中洋一
- 伝統的な言語文化に親しむための 授業のアイデア ————— 小瀬村良美
- 実践1 動作化してお話を楽しもう ————— 室伏亜紀
- 実践2 慣用句クイズをしよう ————— 杉田充子
- 実践3 体験学習を詠む ————— 岸田 薫

教材研究のススメ 1 14 教材研究 はじめの一步 ————— 興水かおり

書写の時間を考えよう 8 16 いろいろな筆記具を使って書こう ————— 新しい指導を考える会

古典って楽しい! 20 第5回 論語 ————— 青山由紀
作・画/吉永直子

「伝統的な 言語文化」に 親しむ

「枕草子」などの古典文学から、「三まいのおふだ」のような昔話まで、古来から伝わるさまざまな言語文化を、小学校で学び、親しむことが求められています。

「伝統的な言語文化」を指導する際、心に留めておくことや、子どもたちをひきつけるためにどのような授業が考えられるか、先生方のお話と、実践事例を交えながらご紹介します。

提言 伝統的な言語文化を学ぶ意味

東京女子体育大学理事・教授 田中洋一

戦後の日本文化は、政治や経済の分野と同様に、欧米の国々を模範として形成されてきました。そのことにより、戦後の新しい日本文化が創造されてきたことは事実ですが、反面、かつての日本人がもっていた、伝統や風習、情緒などの日本的なよさが消えつつあることが指摘されています。このため、我が国の伝統的な文化があらためて見直されるようになってきたのです。

このことは改正された教育基本法や学校教育法にも反映され、そこには、我が国の伝統と文化を尊重する児童・生徒を育成するという方針が示されました。この方針は、言語教科である国語科にも大きな影響を与えました。

今回の学習指導要領の基本的な考え方を示した中央教育審議会答申（平成二十年一月）は、国語科の内容について次のように示しています。

「国語科では、小学校の低・中学年から、古典などの暗唱により言葉の美しさやリズムを体感させた上で、我が国において長く親しまれている和歌・物語・俳諧、漢詩・

漢文などの古典や物語、詩、伝記、民話などの近代以降の作品に触れ、理解を深めることが重要である。」

この答申を受け、新学習指導要領国語科には「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が新設され、小学校から古典を中心とする伝統的な言語文化に親しむ教育が位置付けられました。

かつて日本の子どもたちは、「かぐや姫」や「桃太郎」「因幡の白ウサギ」などの話を大人から聞いて育ちました。したがってこれらは、日本人ならだれもが知っている昔話でした。これらの昔話は子どもたちを楽しませてくれただけでなく、毎日の暮らし方や人との付き合い方など、たくさんの大切なことを教えてくれました。その結果、子どもたちには、誠実、正直、思いやりなどを重視する豊かな心が育ちました。最近、昔話を知らない子どもが増えています。が、それが日本人の新しい問題行動の一因になっているのではないかとこの声も聞かれます。

また、昔話や古典に出てくる人たちの多

くは、自然を愛し自然と調和して生きています。日本には四季折々の美しい自然があり、人々は自然から多くの恵みを得るとともに、自然を愛し、多くの生物と共存してきたのです。このような生き方や価値観も、これからの日本人が大切に受け継いでいきたいものであると思います。

さらに、長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などは、人々の生き方の道しるべとなってきました。これらに表れている古人のものの見方や考え方を知らずとは、人生をさらに豊かにしてくれることでしょう。

このように昔話や古典などの言語文化に小学生のうちから親しむことを通して、日本人が長い間大切にしてきた日本的なよさを継承していくことが望まれているのです。

たなか・よういち

東京都生まれ、東京都の公立中学校教諭、教育委員会指導室長等を経て現職。中央教育審議会国語専門委員、学習指導要領中学校国語作成協力者などを歴任する。著書に「小学校古典指導の基礎・基本」「観念別学習状況の評価規準と判定基準」(図書文化社)などがある。

子どもたちが、伝統的な言語文化に親しむために、どのような授業が考えられるでしょうか。

『わかる、伝わる、古典のこころ』（光村教育図書）などの著書があり、以前から古典の授業に取り組んでおられる小瀬村良美先生に、指導のうえで心がけたいことや、先生が実際に行った授業をご紹介いただきました。

はじめに

古の人は日本の四季が織り成す花鳥風月の変化を楽しみました。長い時を経て受け継がれてきた「伝統的な言語文化」は、現代を生きる子どもたちの生活や言葉の土壌となっており、五七・七五調のリズムはもとより、初めて聞いた漢詩や古文にも興味を示す子は多くいます。一方で昔話を知らない子、伝統的な行事を経験したことがない子、季節感のない生活をしている子も多いためと感じます。

「伝統的な言語文化」に親しむことは、子どもたちの言語生活を豊かにします。そ

のために、言語生活への広がりや視野に入れ、子どもたちの生活の中の言葉につながる実践を心がけたいものです。

今春からの教科書にはさまざまな学習材が収められました。高学年には、長年、中学校教科書に掲載されてきた古典が多く紹介されています。それらにふれるよさを再認識しましたが、中学校の先取りではなく、小学生の知識や言語経験で興味を示すものを選んでいく必要性もあります。それには、子どもたちの日常生活とのかかわり（季節行事など）や国語科以外の他教科との関連、学校全体の取り組みの視点も重要です。教科書だけに頼らず、年間計画の中に、どの素材を学習材として活かしていくか、地域ゆかりの素材を開拓できるか、積極的に挑戦していきたいところです。

学習活動としては、「音読」が重要視されています。「伝統的な言語文化」のもつ言葉や文のリズムや響きを味わうには、まずは読み親しむことが大事です。しかし「内容の大体を知る」「昔の人のものの見方や感じ方を知る」「三領域を通して指導する」

ことにも留意したいものです。ただ声に出して読むのではなく、多様な言語活動が求められています。言語活動の展開には、学習目標と子どもたちの実態と思考を活かしたプロセス重視の学習の構想が大切です。学びの広がりとしては、朗読や演劇などの発表活動、書き換え・創作などの表現活動、調べ学習活動などが考えられます。また、季節感を大切にした俳句や短歌などの学習は年間を通しての活動になります。ことわざや名文の音読や暗唱は、モジュールを活用した帯単元化の工夫をすることでよいでしょう。扱う「伝統的な言語文化」に適した言語活動を取り入れることで、古典への「親しみ」をさらに実感させたいものです。

こせむら・よしみ
神奈川県立横内小学校総務課 小瀬村良美
立総合教育センター「国語力」育成に関する教材開発に向けた基礎研究」調査研究協力者などを務める。朝日新聞「花まる先生」等で「伝統的な言語文化」の実践を紹介する。

次ページより、私の授業をご紹介します。

授業1「絵かきうた」ブックを作ろう（二年）

1 単元について

「絵かきうた」は、一・二年の指導事項「昔話や神話・伝承」の「伝承」の領域です。子どもたちの生活や遊びの中で生まれ、伝承されている「絵かきうた」に、創作活動を取り入れることで、さらにその楽しさを実感させたいと考えました。

子どもたちは、歌いながら言葉をイメージして絵ができる達成感を楽しみ、自分でも調べる中で、歌の構成や言葉の特徴に気づき、創作への意欲をもつことでしょうか。

創作するには、文の構成力や語彙力が必要です。部分を変えたり、付け加えたりして伝承されてきたものを、自己流にアレンジすることで、楽しみながら、言語活動に取り組ませたいと思います。

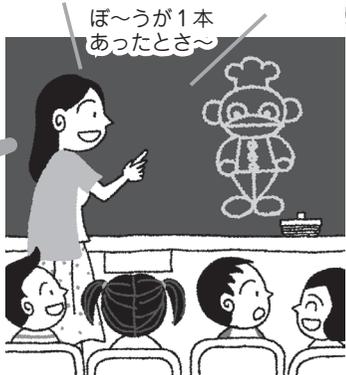
2 学習のねらい

▼絵かきうたの音読や書き換えを楽しみ、絵やとなえ言葉、独特のリズムに親しむ。
▼絵かきうたの順序に沿って、簡単な構成や、文のつなぎ方を意識し、表現する。

3 指導計画（全五時間）

第一時

絵かきうたに出会い、歌や絵を楽しむ。「かわいいコックさん」などの絵かきうたを紹介する。



第二時

絵かきうたを調べ、紹介する（家の人に取材、本やCDで調べるなど）。絵かきうたのひみつを見つける。



第三・四時

絵かきうたを創作する。まず、数字・文字・形から考え、その後、順序を意識して創作する。



第五時

友達の創作した絵かきうたを交流で楽しむ。絵かきうたブックをつくる。



授業2 「いろはかるた」で遊ぼう！ (三年)

1 単元について

本単元は、かるた取りを楽しみながら、「いろはかるた」に興味をもち、読み札の文言の意味や取り札の絵の違いを読み解き、自作かるたで大会を開く活動です。

三・四年生の指導事項には「ことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと」とあります。かるたは子どもたちに身近で、ことわざの導入に適しています。子どもたちはかるた遊びが好きなので、自然にことわざへの関心を高めます。好きな札を自分の言語経験や生活に置き換え、独自の絵札に表現する中で、ことわざを身近な生活の中に取り入れ、使う力を育みたいと考えました。

2 学習のねらい

- ▼かるた取りを通して「いろはかるた」やことわざに親しみ、意味を調べる。
- ▼「いろはかるた」を自分の経験や生活に置き換えて読み取り、創作する。

3 指導計画 (全四時間)

第一時 「いろはかるた」を使って、かるたをし、気づいたことを発表したり、好きな札を選んで紹介したりする。



数人のグループごとに、1セットの取り札を均等に広げる。読み手は教師で、一斉に各グループが同じ札を取り合う。子どもたちは真剣そのもの。

第三時

好きな札の絵を、自分の生活場面に置き換えて描く。友達どうしで、描いた絵から読み札を当てる。



▲「かわいいこにはたびをさせよ」。旅をする人を、自分が飼っている犬に置き換えて描いた。

第四時

かるた大会をする。グループで対戦し、代表を一人ずつ出して、取れたら交代とする。



第二時 好きな札の意味を辞書で調べ、「選んだ理由」、「生活のどんな場面で使いたいか」を発表する。



読み札にも簡単な意味は載っているが、国語辞典等を使って、意味を調べる。

授業3 リレー「春はあけぼの」 (五年)

1 単元について

五・六年生の指導事項には「昔の人のものの見方や感じ方を知ること」とあります。本単元では、「をかし」などの平安時代の言葉と現代との違いに興味をもたせませす。平安時代の衣食住などの生活の様子は映像資料(デジタル教材「わくわく古典教室」光村図書)等を交えるとイメージが広がります。平安時代に生きた清少納言になったつもりで、自分の感じていることを「春はあけぼの」風に創作します。

六年生になると、社会の歴史学習に清少納言が登場します。改めて「枕草子」の他の段を読んだり、他の随筆(「徒然草」など)と比較したり、子どもの探究心に沿った言語活動を構想したいものです。

2 学習のねらい

- ▼「枕草子」の語彙や独特のリズム、昔の人のものの見方や考え方に親しむ。
- ▼「春はあけぼの」の内容の大体をつかみ、音読や翻作を楽しむ。

3 指導計画 (全五時間)

第一時 「春はあけぼの」の内容を確認し、音読する。「をかし・あはれなり」を使って、短文を作る。

第二・三時

「春はあけぼの」の型に合わせて、好きな季節を書く(ワークシート使用)。四人グループになり、テーマ(花・生き物・食べ物・行事など)と季節(春・夏・秋・冬)の分担を決める。

第四・五時

グループ内で読み合って修正した後、グループごとに発表する。



4人1組のリレー形式で作ることにより、意欲や楽しさが広がる。

※子どもたちの意欲次第で、「うつくしきもの」「にくきもの」などの「ものづくし」への展開も可能である。

児童作品

テーマ「スポーツ」
春はつり。海でゆうゆうと魚が動き回るとつきづきし。(略)くらげがかかると、わるし。
夏は水泳。真夏の暑いときに、プールのすきとおった水の(略)泳ぐをかし。
秋は陸上競技。風の中をビュンビュン走るのは、あはれなり。(略)ゴールテープを切るしゅんかんは、いっぺきにあらす。
冬はスキー。白いふわふわ雪の上をスキーですべりおる。(略)ころぼとわろし。

ワークシート

①「あはれなり」「入る」「あはれなり」を「あはれなり」に入れかえて書いてみよう。	「をかし」(おもむきかあひ) すき、たのしい。
②「あはれなり」「入る」「あはれなり」を「あはれなり」に入れかえて書いてみよう。	「あはれなり」(あはれなり) ちかちか、あはれなり。
③「あはれなり」「入る」「あはれなり」を「あはれなり」に入れかえて書いてみよう。	「あはれなり」(あはれなり) ちかちか、あはれなり。
④「あはれなり」「入る」「あはれなり」を「あはれなり」に入れかえて書いてみよう。	「あはれなり」(あはれなり) ちかちか、あはれなり。

実践

動作化してお話を楽しもう

使用教材：「三まいのおふだ」（二年下）

大田区立久原小学校 室伏亜紀

1 はじめに

学習指導要領の「二年の「伝統的な言語文化に関する事項」には、「低学年では、まず、読み聞かせを聞くことで、伝統的な言語文化にふれることの楽しさを実感できるようにすることが大切である」という趣旨が記されている。つまり、お話を聞いて、「おもしろかった。もっと聞いてみたい。自分でも読んでみたい」と感じることで、児童が伝統的な言語文化に親しんでいく始まりとなるのである。

本学級の児童は、五月に「いなばの白うさぎ」を学習した後に、ボランティアから「三まいのおふだ」の読み聞かせを聞いている。つまり、児童にとっては、この物語とは二回目の出会いとなる。そこで、今回は、学習指導要領「C 読むこと」②の「イ 物語の読み聞かせを聞いたり、物語を演じたりすること」と関連づけて、物語の一部を動作化することによって、場面の様子や登場人物の行動について想像を広げながら

楽しむことができるよう、活動を工夫した。

2 指導の実際（全一時間）

ねらい

読み聞かせを聞いて、登場人物の行動や場面の様子を想像して楽しむ。

学習活動

①登場人物と出来事を確認する。

以前に読み聞かせをしてもらったときのことを思い出し、「誰が出てきたか」「三枚のお札は、それぞれ何に変わったのか」ということについて発表し合う。

②本時のめあてを知る。

読み聞かせを聞いて、げきをたのしもう

実際には、教師の読み聞かせに合わせて人物の動きを表現する「動作化」の活動を行うが、児童にイメージをもたせやすくするため「げき」という言葉を使う。

③「三まいのおふだ」の読み聞かせを聞く。

会話部分の方言や、独特の擬声語・擬態語など、昔話ならではの世界を味わうこと

3 おわりに

感想には、「山んばがほうちようをとぐところをげきでやってみたら、なんだかさわりました」「大川ができたところのげきをやって、きつと、山んばはクロールとかができないと思いました。小ぞうをたべるのがたのしみで、いそいでいて、いきつきがでなくて水をのんだのだからうと思えました」などの記述が見られた。

動作化したことによって、物語の世界に入り込んで楽しみ、場面の様子を豊かに想像することができたものと考えられる。

以上のように、低学年においては、昔話の読み聞かせを聞いて話のおもしろさを楽しんだり、独特の語り口調や言い回しを味わったりする経験が、伝統的な言語文化に親しむ第一歩となる。さらに、役割読みや動作化など、児童が主体となる活動を行うことによって、昔話の世界を十分に楽しませたい。

昔話を1時間で楽しませるためのポイント

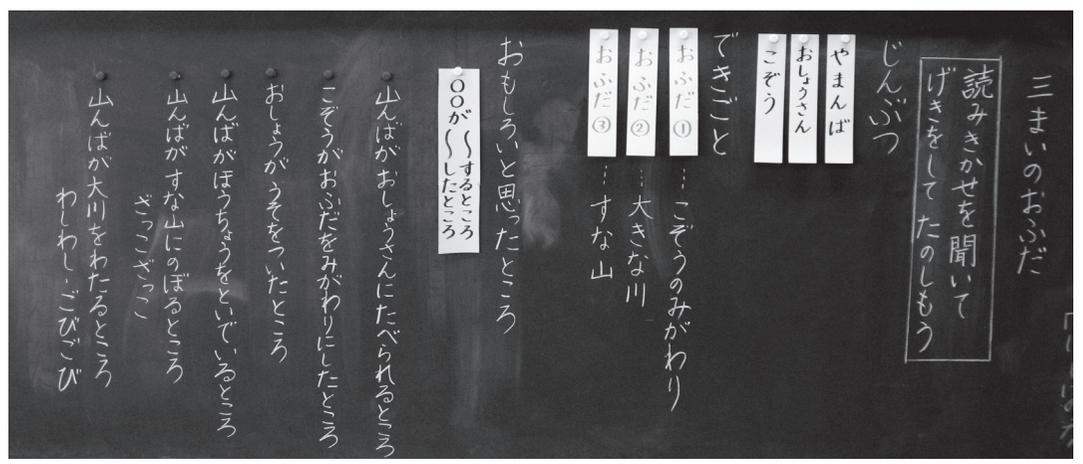
- 【読み聞かせの前に】教科書には、3枚の挿絵が示されている。読み聞かせをする前に、絵を見て気づいたことを話し合う活動を行い、興味・関心を高めたい。
- 【読み聞かせの後に】本事例では動作化を行ったが、この他に気に入った場面を役割読みして音読を楽しむこともできる。

「伝統的な言語文化」に親しむ



「必死に手を振り回して泳いでいたと思う」と、山んばが大川を渡る様子を動作化する児童たち。

- を広げるための補助発問を行う。児童は、「近くにある」多摩川よりも、もっと大きな川で、すごい速さで水が流れていると思う」「早く小僧を捕まえたいから、とっても怖い顔で、必死に手を振り回して泳いでいたと思う」など、場面の様子や登場人物の行動を想像して発言し、動作化に生かしていた。
- ⑥感想を書いて発表する。本時の学習を振り返り、感想を書いて発表をする。
- ⑦いろいろな昔話があることを知る。事前に「山んばが出てくる話」「小僧が活躍する話」など、内容が関連する民話の絵本を用意しておき、紹介して読書活動につなげる。
- 【評価】読み聞かせを聞いて、登場人物の行動や場面の様子を想像して楽しんでいる（動作化の様子・感想によって評価を行う）。



板書例

慣用句クイズをしよう

使用教材：「慣用句」(四年下)

1 はじめに

子どもたちは、言葉にとっても敏感に反応し、日常的に耳にしたり目にしたりの言葉や文をすぐに使ってみようとする。また、言葉遊びやさまざまなキャッチコピーなどを覚えている。

学習指導要領で新設された「伝統的な言語文化に関する事項」の三・四年の指導事項に、本単元で取り上げる「慣用句」が示されている。これは、慣用句の意味を知り、日常生活で用いて言語活動を豊かにすることをねらいとしている。

慣用句は、二つ以上の語が結び付いて元の意味とは違った特定の意味を表すものである。子どもたちは、「慣用句」という言葉は知らなくても、これまでに耳にしたり使ったりした経験をもっているだろう。慣用句の意味や使い方を知り、日常的に適切に活用できるようになれば、伝えたいことをわかりやすくしたり会話を楽しんだりすることができるようになる。

2 指導計画(全二時間)

本単元のねらい

長い間使われてきた慣用句の意味を知り、生活の中で使うことができる。

第一時

- ①教材文の中の「火花を散らす」を参考にしながら、導入を行う。
- ②二つ以上の語が結び付いて、新しい意味をもつ決まり文句であることを知る。
- ③「馬」「竹」「頭」などのように、慣用句の中心になる言葉を辞書で引いて、意味や使い方を調べる。

3 指導の実際

第一時

がんばれ赤組、がんばれ白組。
両チームのおうえんだんが、
火花を散らしています。

この教科書P28の例文に対して、「あぶないよ。本当に火花が出たら」「お互いに、見合っている感じがな」という意見が子どもたちから出された。そこで、辞書で「火花」の項目からたどれることを知らせ、「火花を散らす」という「慣用句」であることと、その意味を調べさせた。さらに、教科書を参考に、「体や心」「動物」「植物」「かたかなの入ったもの」もあるこ

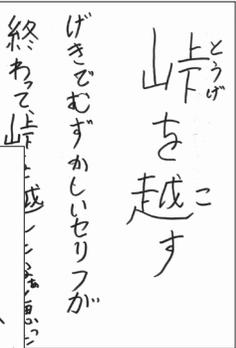
とを確認させる。子どもたちから「腕が上がる」「腕が落ちる」という慣用句が出され、体の一部を使った慣用句の例として意味や使い方を考えさせた。

「どんな短文が作れますか」と問いかけると、「料理がおいしい。腕が上がったね」「料理がおいしくない。腕が落ちたね」という短文が出された。聞いたことがある子どもたちは、ますます慣用句に興味を示し、自分なりの予想を立てながらP29の問題に取り組んでいった。

第二時

「自分の使ってみたい慣用句を見つけ、クイズを出し合おう」と、ワークシート(小学校国語ワークシート集「光村図書 四年P105」を配る。クイズに出す慣用句が決まったら画用紙に書き、自分の考えた短文を付け足し、短文の裏には、慣用句の意味を書くようにさせる。

- クイズの出し方は二通りで行う。
- ①短文をヒントに慣用句の意味を答える。
- ②慣用句を紹介し、意味を二択から選ぶ。



児童がつくったクイズ。裏面に意味が書かれている。

A わくわくしながら抽選の発表を聞いた。
B おどりながら抽選を聞いた。

子どもたちは、前時の慣用句の調べ方を使って、自分がクイズで出したい慣用句を探し始めた。国語辞典で中心になる言葉から調べたり、活用例を参考にしたりしながら、クイズにしたい慣用句を選び、慣用句を使った短文を自分で考えた。

①意味を問うクイズ例

- 胸を借りる
(今日の試合の相手は、前回優勝チームだ。胸を借りるつもりでがんばろう。)
- 峠を越す
(劇で難しいセリフが終わって、峠を越したなあと思った。)

4 おわりに

二時間の学習であったが、子どもたちは進んで辞書を引いて、自分が使ってみたい慣用句を見つけ、クイズを楽しむことができた。互いにクイズを出し合う活動を取り入れることで、子どもたちは、より慣用句を身近に感じることができた。

クイズの他にもカードにまとめて本したり、朝や帰りの会のスピーチなどに使ったりするなどの展開が考えられる。言葉への関心を高め、学習内容の日常化を図ることが大切である。

実践 3 体験学習を詠む

使用教材：「たのしみは」「俳句を作ろう」（六年）

1 はじめに

本校では、六年生が新潟で二泊三日の宿泊体験学習を行う。本単元は、その体験学習から生まれた、総合的な学習の時間と関連する大単元の一つである。

国語科について言えば、体験学習の前に、①「書くこと」として、依頼の手紙、②「話すこと・聞くこと」として、事前情報交流会での資料を提示しながらの説明、③「書くこと」として、お礼の手紙、④「話すこと・聞くこと」として、資料を提示しながらの活動報告、⑤「書くこと」「書写」として、短歌や俳句を詠むという三つの小単元に取り組んだ。本実践は、この中の⑤を取り上げたものである。

「書くこと」の学習において難しいのは、課題設定と取材である。自分が書きたい、伝えたいと思う題材を設定できるかが、学習を成立させるポイントであろう。その点で、本単元は、印象に残る体験学習が、課

題設定と取材に大きな効果を発揮している。

2 指導計画（全六時間）

第一次（一時間）

これまでに暗唱した短歌や俳句を出し合ったり、体験学習の思い出を語り合ったりする。教材文「たのしみは」を読んで、学習課題「越後体験学習で心が動いたことを、使う言葉を工夫して短歌や俳句に表そう」を設定し、学習計画を立てる。

第二次（三時間）

思い出の中から題材を決め、百字、百四十字で心が動いた瞬間のことをまとめる。次に、短歌や俳句の音数に関するルールを知り、文章を短くしていきながら短歌や俳句のリズムを整える。そして、言葉の順序や表記を工夫して、自分の作った短歌や俳句を吟味し、完成させる。

第三次（二時間）

色紙に短歌や俳句を毛筆で清書する。掲示した作品を見合せて交流し、単元全体の振り返りをする。

第二次 第三時

（本時目標）使う言葉を選びながら、短歌や俳句の音数に合わせて伝えたいことをまとめることができる。

ワークシート2を使い、前時でまとめたものをさらに短い文章にリライトし、そこから短歌や俳句の音数に整えていく。最初から五・七・五等のリズムで作らせると、音数を合わせることにばかり意識が向いてしまい、心情や情景を詠む点が甘くなってしまう。短歌と俳句の選択もこの時点で初めて行うようにした。

第二次 第四時

（本時目標）言葉の順序や表記を工夫して、短歌や俳句を吟味することができる。

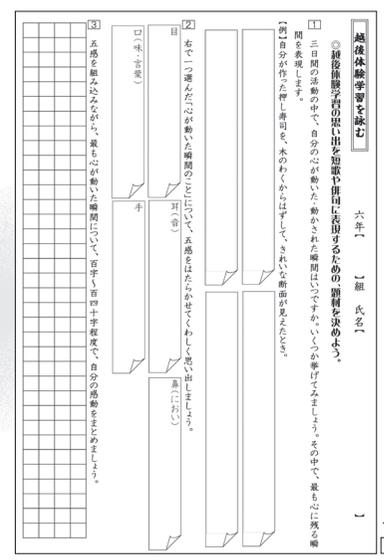
教科書の巻末資料「俳句を作ろう」を参考に、作ったものの推敲を行った。いろいろな順序や表記を試みることで、それぞれが納得のいく短歌や俳句を完成させることができた。また、言葉の響きを意識できるように、音読しながら吟味するようにもした。

3 指導の実際

第二次 第二時

（本時目標）心が動いた瞬間のことを、五感を働かせながら思い出し、百字、百四十字程度でまとめることができる。

題材を決めるときには、印象に残ったあの瞬間をとらえるようにする。漠然とした「〇〇して楽しかった」といった感想では、短歌や俳句に表しにくいためである。ワークシート1を使い、五感を働かせて、具体的にそのときの様子を思い出させる。



ワークシート1
②に書いた言葉は、実際の短歌や俳句の中で使う児童が多かった。

4 おわりに

本実践は「書くこと」及び「書写」の指導事項に主眼をおいたものであるが、中学年の「伝国」ア（ア）との関連を生かし、少しだけ文末を文語調にしてみたり、音読することで言葉の響きやリズムを感じたりしながら、作っていくことができた。

越後体験学習を詠む 2 六年一組 氏名：一

◎ 越後体験学習の思い出を、短歌や俳句のリズムに整えよう。
前の時間に百字、百四十字でまとめた文章を読み返し、いっしょに短歌や俳句の音数を整えよう。

① 言葉を選び、短歌や俳句の音数に合わせて書く。
② 短歌や俳句の音数に合わせて書く。
③ 短歌や俳句の音数に合わせて書く。

④ 短歌や俳句の音数に合わせて書く。
⑤ 短歌や俳句の音数に合わせて書く。

⑥ 短歌や俳句の音数に合わせて書く。
⑦ 短歌や俳句の音数に合わせて書く。

⑧ 短歌や俳句の音数に合わせて書く。
⑨ 短歌や俳句の音数に合わせて書く。

⑩ 短歌や俳句の音数に合わせて書く。
⑪ 短歌や俳句の音数に合わせて書く。

⑫ 短歌や俳句の音数に合わせて書く。
⑬ 短歌や俳句の音数に合わせて書く。

⑭ 短歌や俳句の音数に合わせて書く。
⑮ 短歌や俳句の音数に合わせて書く。

⑯ 短歌や俳句の音数に合わせて書く。
⑰ 短歌や俳句の音数に合わせて書く。

⑱ 短歌や俳句の音数に合わせて書く。
⑲ 短歌や俳句の音数に合わせて書く。

⑳ 短歌や俳句の音数に合わせて書く。
㉑ 短歌や俳句の音数に合わせて書く。

㉒ 短歌や俳句の音数に合わせて書く。
㉓ 短歌や俳句の音数に合わせて書く。

㉔ 短歌や俳句の音数に合わせて書く。
㉕ 短歌や俳句の音数に合わせて書く。

㉖ 短歌や俳句の音数に合わせて書く。
㉗ 短歌や俳句の音数に合わせて書く。

㉘ 短歌や俳句の音数に合わせて書く。
㉙ 短歌や俳句の音数に合わせて書く。

㉚ 短歌や俳句の音数に合わせて書く。
㉛ 短歌や俳句の音数に合わせて書く。

㉜ 短歌や俳句の音数に合わせて書く。
㉝ 短歌や俳句の音数に合わせて書く。

㉞ 短歌や俳句の音数に合わせて書く。
㉟ 短歌や俳句の音数に合わせて書く。

㊱ 短歌や俳句の音数に合わせて書く。
㊲ 短歌や俳句の音数に合わせて書く。

㊳ 短歌や俳句の音数に合わせて書く。
㊴ 短歌や俳句の音数に合わせて書く。

㊵ 短歌や俳句の音数に合わせて書く。
㊶ 短歌や俳句の音数に合わせて書く。

㊷ 短歌や俳句の音数に合わせて書く。
㊸ 短歌や俳句の音数に合わせて書く。

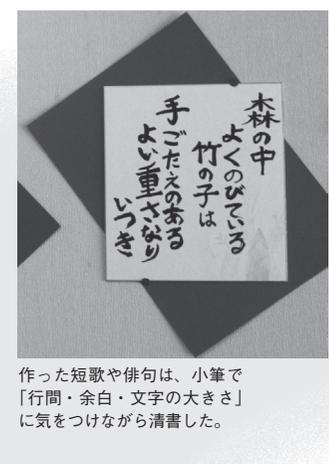
㊹ 短歌や俳句の音数に合わせて書く。
㊺ 短歌や俳句の音数に合わせて書く。

㊻ 短歌や俳句の音数に合わせて書く。
㊼ 短歌や俳句の音数に合わせて書く。

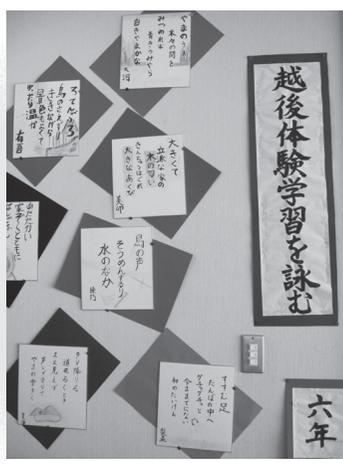
㊽ 短歌や俳句の音数に合わせて書く。
㊾ 短歌や俳句の音数に合わせて書く。

㊿ 短歌や俳句の音数に合わせて書く。
㊿ 短歌や俳句の音数に合わせて書く。

最終的には、「森の中 よくのびている 竹の子は 手ごたえのある よい重さなり」という短歌に決定した。



作った短歌や俳句は、小筆で「行間・余白・文字の大きさ」に気をつけながら清書した。





1 教材研究 はじめの一歩

今春から教科書が新しくなり、教材研究に取り組まれている先生も多いことでしょう。さまざまな学校の校内研究にかかわっていらっしゃる輿水先生に、教材研究の基礎・基本について、連載していただきます。

はじめに

「国語って、何をどうやって教えればいいのかわからなかったのです。教材研究って大事なんですね」

「文章の中に、こんなしかけがあったなんて、初めて読んだときには全く気づきませんでした。教材研究っておもしろいですね」

「どうして、子どもたちからああいう反応が出たのか、やつと納得できました」

いろいろな学校で校内研究にかかわる機会が増えた。多くの学校では、研究協議会が終わってから、別室で質問時間を

設定している。冒頭の会話は、教材研究の楽しさ、おもしろさをあまり経験してこなかった若い先生方からよく聞かれる声である。一方、経験を積んだ比較的ベテランの先生方からはこんな声も聞く。

「新しい教材が増えて大変です」

「それだけでなく忙しいのに、また、教材研究から始めなくてはなりません」

「同じ教材でも、今までと比べて配当時間数が短くなっています。教えきれません」

職員室の本音であろう。今までの経験をどう生かしてよいのか、果たして使えるのか、若干の不安を含んだ声に聞こえる。

こうした声を受けて、教材とは何か、教材研究とは何のために、どのように行うのが効果的か、よく言われる「教科書を教えるのではなく、教科書で教える」とは具体的にどういうことを言うのかなどについて述べていきたい。ここで取り

上げる「教材」は、特に「読むこと」の能力をつけるために設定された教科書教材に限定する。また、ここで扱う「教材研究」は、研究授業などのために行うというより、日常の授業に生きるものを中心に考えることにする。

読者の視点で

まずは、「読者の視点」から純粹に内容を楽しんで読む。教科書に採用されている文章は、専門家が多くの時間と協議の末に選び選んだ作品である。内容も、表現も価値の高いものが掲載されている。まずは、読者として文章と出会うことを勧める。

読後の余韻を楽しめる教材であれば、その感動を子どもたちと共有したいはずである。いいなあと思ったところ、すごいなあと思ったところを簡単にメモする。気に入った表現、気になった言葉や叙述

には印をつけたりサイドラインを引いておいたりすると、感動や感想の根拠が明確になり、あとで誰かと感動を交流し合うのに役立つ。中には作者が何を訴えたのかよくわからないという感想もある。そのこともメモしておく。ある意味この直感的に「感じる力」が大切である。児童に書かせる「初発の感想」に通じるものである。高学年の長い作品でも、「読者の視点」で読んで、感想をメモし、その根拠にマーキングするのに必要な時間は数分である。

子どもの視点

次に、「子ども（学習者）の視点」で読む。そのとき、必ず声に出して読むことが大切である。句読点まで読む。読み間違いやすいところ、意味がわかりにくいところ、難語句、新出漢字について確認し、学級の子ども一人一人の顔を思い浮かべながら音読する。これは、通読するのに必要な時間の把握や「範読」の練習にもなる。

読み終わったら、「学習の手引き」を

開く。この学習活動でどのような反応を示すだろうか、子どもの視点で想像しながら実際にやってみる。ノートを作成してもよいが、本文をコピーして自分の考えを書き入れてみるのが効率的である。

新しい知識や技能は何か、既習の学習で活用できるものはないか、子どもたちの生活体験と比較してわかりにくいところはないか……学習活動を体験することで児童理解も深まる。子どもたちが必要とする時間の五分の一もあれば十分である。十時間扱いでも正味一時間で大丈夫。時間内で苦勞するようなら、子どもの気持ちを知り、実感をもって理解できる特典もある。

さらに、「たいせつ（※）」を確認し、視写する。子どもたちにわかりやすく板書するためにリライトしてみてもよい。

その後、「本は友達」に出ている作品を図書室で探す。できれば、いくつか読んで紹介したい本を選ぶ。子どもの視点での読みを楽しめるようになると、教材研究は八割達成。



※手引きの中にある「たいせつ」

指導者の視点で

さて、いよいよ「指導者の視点」での読みに入る。仕上げの二割である。指導者の視点で忘れてはならないのは、作品の初めのページに示してあるその単元のねらいである。単元の指導が終わったとき、このねらいが達成できたかどうかの評価の対象になる。評価意識をもち、子どもたちが全員評価規準を達成できるように支援することが必要だからである。

教師用の指導書別冊（朱書編）と自分の学習活動での書き込みを比較してみると、読みの深さや叙述の捉え方の参考になる。自分が気づかなかった書き込みがあれば、自分のコピーに書き加えておくと深みが出る。最初から教師用指導書に頼りすぎると、教材研究の楽しさは半減する。「自分の考えをもち」、それを相互に交流することで深めたり広げたりすることが、いま最も求められている力である。未熟でも、不完全でもよい。自分の考えをもつ楽しさを実感してほしい。

新しい単元に入るときは、ぜひ、以上三つの視点で読んでみることを勧めたい。

いろいろな筆記具を 使って書こう

新しい指導を考える会

文具店にはさまざまな材質のカラフルな筆記具が並んでいます。子どもたちには、このたくさんさんの筆記具の中から、目的に合った最適なものを選び、使う力が求められています。それは、日常生活や学習活動の書字場面で筆記具の特徴や用途に合わせて活用できる力につながります。

今回は、「文字の形から受ける印象」を学習のきっかけとして、「こんな文字を書きたい」という願いをふくらませ、筆記具を選んで書いていく、という学習展開を考えました。

1 はじめに

今回は、本をまるごと一つの作品として、本の内容と表紙のタイトル文字との関係を図書館にある多くの本から調べ、調べたことを自分の書く文字に反映させていく学習です。絵本の表紙にはこんな書体、図鑑には……といった具合に、本の内容と書体の関係について調べていき、

効果的に使い、照準を合わせた読者にアピールしていることを確認します。これが第三次の書字活動につながります。

関連 六年・国語教科書P152～P155の「本は友達」を利用して、書かれている内容とともに表紙の工夫について調べてみるのもよいでしょう。

「本のチカラ」調査隊

2組 ④ グループ：名前

●調べるジャンルは 子どもむけ
図かん

●ここから見つけました！
1階

○本の題名
小学館の図鑑 NEO 昆虫

○どんな年代の人が読むのかな
小学校3年生～6年生くらい

○1文字をそっくりに写してみよう

○どんな目的で読むのかな
調べて、ものがあるときに読む。写真と文で調べたいときに見る。

○文字の特徴はあったかな。どんな感じがする？
まるい文字が多く使われていた。のっている種類が多色く、つきの文字で書かれていた。やさしい感じ。

○中央図書館での学習の感想
本によってつくりがちがうことがあることがわかった。図書館のガマのアドバイスで本の場所が特によく分かった。

2 指導計画と実際

第一次 「本」の良さ、魅力を話し合いました。

自分たちが書き上げるしおりや発表資料、スローガン幕の文字を、ふさわしい筆記具を選んで書く活動を構成しました。五、六年生のどちらでも実践が可能です。

「本」の良さ、魅力を話し合いました。

「本のチカラ」調査隊 調査結果

ジャンル	こんな書体があった！	調べたこと・わかったこと	よく読んでいた読者の年齢 (図書館司書への取材から)
絵本 紙しばい どうわ		<ul style="list-style-type: none"> ○丸い文字が多い。 ○おもしろそうな写真と一緒に大きめの文字が使われていた。 ○調べやすいように、中身によって、文字の色がそろえてあったり変えてあったりした。 	小学生がほとんど。
図かん		<ul style="list-style-type: none"> ○かわいい文字が多かった。 ○手で書いた文字もあった。 ○女子が読みそうな本に、かわい文字が多い気がする。 ●難しい漢字は使っていない。使っている漢字で何年生くらいが読むかわかる。 	小学生から中学生はじめ頃まで。 女の子がよく借りる。
子ども向けの物語 や小説		<ul style="list-style-type: none"> ○「大人」って感じがする。きちんとした感じ。 ○漢字が多く、文字が多い。 ○歴史小説には、筆で書いた文字もあって昔風だ。 ●丸い文字があまりない。 ●子どもっぽいからかな。 	大人全般。 一度にたくさん借りる人が多い。
大人向けの小説		<ul style="list-style-type: none"> ○文字から受ける感覚。文字そのものの観察。特に、「相手(読み手)」を意識したものにやさしい感じがした。 ○文字が大きい。 ○手で書いた文字も多かった。 ●小さい子も読めるようにひらがなが多く使われていた。 ●読んであげることもあるので、文字の間隔が広い。 	よく読んでいた読者の年齢 (図書館司書への取材から)

「好きなところで読める」「多くの種類があって、選べる」「表紙を見たら、内容を想像できる」などが挙がりました。さらに、表紙のつくりを調べると「絵や写真」、「文字」からなっており、文字にもいろいろな種類があることに気がつくきました。

【字種】 漢字
ひらがな
カタカナ
アルファベット…

【書体】 いろいろな
形で書かれている

書体が変わると、受ける感じ(印象)も変わることがわかり、本は内容だけでなく、いろいろなところに読み手をひきつける工夫がされていることをつかみましました。

第二次 「本のチカラ」調査隊(二時間)

「本のチカラ」調査隊を結成し、実際に地域の図書館に向いて表紙の文字について調査をしました。本のジャンルごとにグループに分かれ、本を見つけて「読む」ことと同時に、表紙の文字の特徴を調べました。また、図書館司書の方への取材から読者層を洗い出し、多く読んでいる年齢層などを調べました。

ここでは、本の表紙が、読む人の立場に立って作られている点を押さえておくことが大切です。文字や絵、写真などを

「ふゆのおばけ」(せなけいこ/金の星社) 『まほうのマフラー』(あまんきみこ、マイケル・グレイニエツ/ポプラ社)

「からだはこうしてできている」(坂井建雄、めぐろ みよ/岩波書店) 『小学館の図鑑 NEO 昆虫』(小学館)

『クレヨンしんちゃんのまんがことわざクイズブック』(永野重史/双葉社) 『かいけつゾロリつかまる!!』(原ゆたか/ポプラ社)

『落葉の坂道』(光村図書出版) 『一日一書』(石川九揚/二玄社)

① 用紙に対する文字の大きさを確かめる書きこぎ

② 読みやすくなるように、同じ目印に同じ大きさの文字を書いて書きこぎ

③ 読みやすさを考えて書きこぎ。用紙と文字の大きさの関係

④ 学習指導要領の「学習指導要領」

町のおすすめベスト3
5年2組 宮下 博

- 1 緑山公園
春には桜が、秋にはコスモスが楽しめます。
- 2 青木川
水がきれいで、魚や水鳥がたくさん生息しています。
- 3 松屋のコロッケ
いくつ食べてもあきない、おいしいコロッケです。

好きな本ベスト3
5年1組 松谷 ひかる

1. ナルニア国物語 (C. S. ルイス)
2. きまぐれロボット (星 新一)
3. ぼくだけのこと (森 絵都)

ワークシート

●練習
用紙全体の大きさとの関係から、文字の大きさやそれにふさわしい筆記具を選ぶ練習をします。文字の目立たせ方や字間、行間などを筆記具を変えて試し書きしていきます。

六年生の学習指導書のワークシート（ぐんぐん上達編）を活用してもよいでしょう。

書き味調査 ● 筆記具の種類

書き学習シート

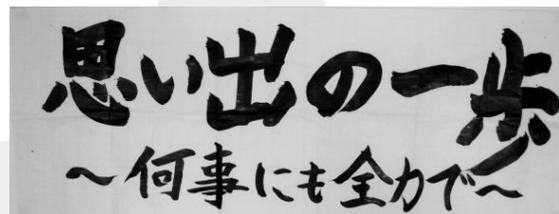
名前

(太)	(中)	(細)	
フェルトペン	フェルトペン	水性ボールペン	えん筆
書	書	書	書
大筆	小筆	太筆	筆
書	書	書	書

ワークシートに、さまざまな筆記具で書いてみると、筆記具ごとの特徴がとらえやすい。この枠に大筆で書くことが難しいことも体感できる。

●筆記具の特徴を知る
左のようなワークシートを利用して、筆記具を変えて同じ字を書いてみるとよいでしょう。用紙（マス目）に対しての文字の大きさを考えることができます。

第三次 しおり、発表資料をつくらう
（二時間）
「本のチカラ」調査隊での活動を、宿泊学習のしおりや発表資料作りの書字活動に生かしていきます。どんな書体をどんな大きさと書くと良いのか、そのためにはどんな筆記具がふさわしいのかを考えていきました（下図参照）。



▲スローガンは、大きく紙いっぱい。「何事にも～」というサブタイトルはメインタイトルよりも小さめに、左右中央に文字がくるよう配慮して書いた。

帰校式

プログラム

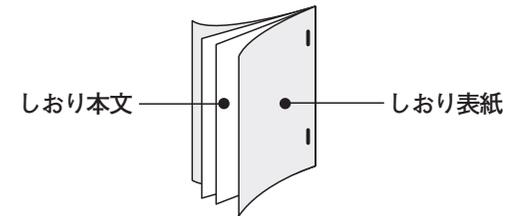
1. 始めの言葉
2. あいさつ (各クラス2人)
3. 感想
4. 先生から
★久保先生から
★佐藤先生から
5. 終わりの言葉

(各自クラスにて解散)

発表資料
スローガン幕
など

▶「帰校式」のしおり。
タイトルは太いフェルトペンで、プログラムの内容は細いフェルトペンで書いた。

●下書き・仕上げ
筆記具、用紙全体の大きさとの関係を考えてながら、プログラムやスローガン幕を書きます。



<ul style="list-style-type: none"> ・目立つ ・貼ったときに、説明しやすいもの ・聞いている人に内容がよく伝わるように 	<ul style="list-style-type: none"> ・文字をたくさん書く ・たくさん書くから途中で間違えそう ・読みやすく、まっすぐ ・絵や図も入れる ・自分たちや、おうちの人も読むかも 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの宿泊学習のめあてが入っている ・楽しくて思い出に残ることが伝わるもの ・表紙っぽく、しおりだとズバリわかるもの 	どんなもの？
<ul style="list-style-type: none"> ・大・中・小の文字が書ける方がいい ・色がたくさんあるといい ・小さすぎると見づらい ・少し遠くからも見える 	<ul style="list-style-type: none"> ・小さい字がたくさん書ける ・間違えたらすぐ消せる ・普段よく使っていて、疲れにくい 	<ul style="list-style-type: none"> ・横書きで大きめに ・はっきりとわかるように ・小さい文字もある 	どんな書体？ どんな大きさ？
<p>極太・太・細の色フェルトペン 筆でもよい</p>	<p>鉛筆（濃いもの） 細いフェルトペン</p>	<p>太いフェルトペン 筆でもよい</p>	どんな筆記具が いいかな？

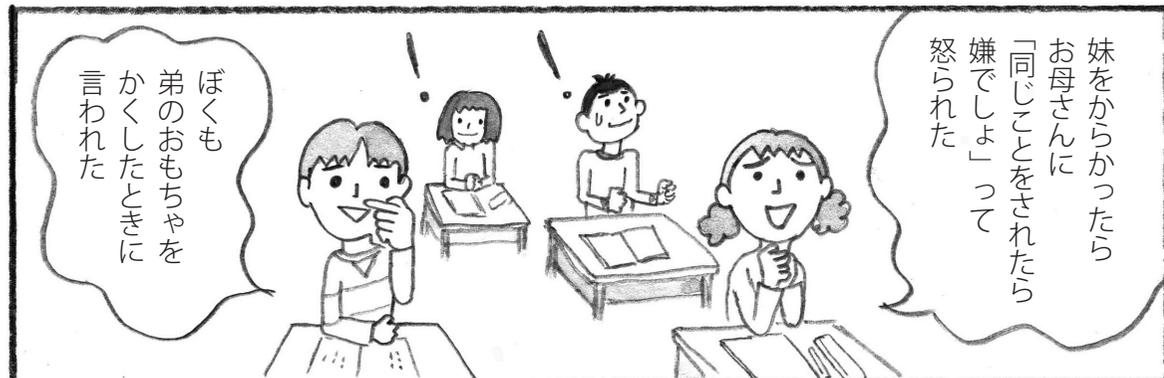
3 まとめ

書写の学習は正しい文字を書くための原理や原則を学ぶ学習です。そこには正しい文字を表記するための「様式」や文字の形や書き方、配列から受ける印象や効果を学ぶことも含まれます。

筆記具を変えることで、書き上がる文字の形や大きさが変わります。言い換えれば、筆記具を選ぶということは、その書写の場にどんな文字の大きさや形がふさわしいかを判断することです。

学習指導要領の五・六年の指導事項には「目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書く」とあります。相手や目的を意識し、場にふさわしい文字を書くために筆記具を選んで書く力を身につけなければなりません。

身の回りにあふれる筆記具を目的に応じて使いこなせるようになると、書いて伝える楽しさが一段と増すことでしょう。





できたエッセイはクラスで読んで交流しましょう。友達のエピソードを聞くことで子どもたちはいろいろな論語に興味をもつようになります。

子曰はく、「君子は義に喩り、小人は利に喩る」と。

意味
孔子は言った。「君子は自分の行動が義になさっているか考え、小人は損得を考へる」と。

う	な	か	自	う	を	自	限	本	た	四
い	い	考	分	の	の	の	が	を	と	書
。	。	え	の	行	小	は	過	す	時	室
		ば	行	動	人	は	ぎ	ぐ	の	に
		く	行	が	は	に	て	に	二	新
		も	動	義	利	し	も	返	冊	し
		も	し	に	に	よ	返	さ	と	い
		気	な	み	喩	う	さ	な	も	本
		を	け	か	る	と	な	い	借	が
		つ	な	な	し	す	の	の	り	二
		け	な	の	る	る	を	見	て	冊
		よ	れ	の	し	だ	を	た	、	届
		う	ば	も	だ	と	行	期	の	い
		と	な	の	と	行	動	も	の	い
		思	ら	た	思	動	も	も	の	い



まず、エッセイがどのような文章なのか子どもたちに説明します。

〈論語エッセイの書き方〉

1. 具体的なエピソードが思いつくか「論語」を見つける
2. 構成
 - はじめ・中・おわり
 - 三部構成
 - エピソード
 - 論語のかかり
 - しめくり
 - 主張

自分の経験・身の回りのこと ニュースで見たこと など

場合によっては教師が書いたエッセイを見せてもよいでしょう。

六百字程度でまとめよう



研究会のご案内

第40回全国小学校国語教育研究大会 浜松大会
静岡県教育研究会国語研究部研究大会 浜松大会

開催日 平成23年11月17日(木)・18日(金)
会場 ホテルクラウンパレス浜松(11月17日)
浜松市立上島小学校・浜松市立積志小学校(11月18日)
テーマ 「言葉の力」を育てる魅力的な国語科授業の創造 -生きて働く言語活動を通して-
内容 (第1日目)全小国研理事会/全小国研総会/基調提案・特別講演など
(第2日目)会場校研究発表/公開授業/研究協議会/特別講演/記念講演など
講演 <上島小会場・特別講演> 文部科学省初等中等教育局教科調査官 水戸部修治氏
<上島小会場・記念講演> 狂言師 山本東次郎氏
<積志小会場・特別講演> 静岡大学教育学部准教授 浮田真弓氏
<積志小会場・記念講演> 津波・防災学者 河田 恵昭氏
会費 4,000円
連絡先 全国小学校国語教育研究会 大会事務局 浜松市立上島小学校
〒433-8122 静岡県浜松市中区上島一丁目21-1
TEL:053-471-3195 FAX:053-471-3196

展覧会のご案内

4年の国語教科書に掲載されている「ごんぎつね」が誕生して、今年で80年を迎えます。それを記念し、「新美南吉記念館」(愛知県半田市)では、「『ごんぎつね』誕生80年記念展 かすや昌弘・光彩画の世界」が開催されています。

「ごんぎつね」が初めて光村図書の教科書に登場したのは昭和46年。それから今日まで、絵本作家・かすや昌弘先生の幻想的な挿絵は、多くの子どもたちに愛されてき

ました。この挿絵は、「光彩画」といい、紙を形取りして重ね、ライトの光で透過させて撮影するという独特の技法を用います。展覧会では、その原画フィルムを大きく引き伸ばして展示。暗闇に美しい世界が広がります。会期は10月16日(日)まで。詳しくは「新美南吉記念館」ホームページをご覧ください。

新美南吉記念館
<http://www.nankichi.gr.jp/>



挿絵の展示にあわせて、「ごんぎつね」誕生の歴史も紹介されている。

教科書編集部便り

常用漢字表の改定に伴う措置について

平成22年11月、196字を追加し5字を削除した、新「常用漢字表」が告示されました。「常用漢字表」の改定は、昭和56年の告示以来、29年ぶりとなります。追加された196字は、全て中学校で学習することと決められました。また、改定に伴い23年3月に学校段階別の「音訓の割り振り表」が示されました。これにより、小学校学習漢字についても16の音訓が追加されることとなります。以上の改定を受け、学校現場においては平成24年4月より対応することとなっております。

平成24年度用の小学校「国語」教科書では、漢字の音訓追加に合わせ、教材末漢字欄で提示する読み方を追加するとともに、教材本文中の表記を改めます。

小学校学習漢字に追加される音訓

1年	中	ジュウ		
3年	委	ゆだねる	育	はぐくむ
	館	やかた	全	すべて
	速	はやまる	他	ほか
	放	ほうる		
4年	関	かかわる	要	かなめ
	類	たぐい		
5年	応	こたえる	混	こむ
	務	つとまる		
6年	私	わたし	創	つくる

(※常用漢字表の付表に新たに付け加わった語真面目 まじめ)

24年度以降の御指導に支障が生じることのないよう、移行に関しては、小社として改めて資料を準備する予定です。

平成24年度「言語教育振興財団」研究助成金 一般公募

言語教育(国語教育・外国語教育等)の充実・発展を図るために、理論と実践の分野について優れた研究開発を行う団体または個人に対して助成します。

助成内容	①言語教育の内容・方法に関するもの(教育内容・方法部門) ②言語教育教材の質的向上に関するもの(教材部門) ③教育機器を利用した言語教育の在り方に関するもの(教育機器部門)
研究期間	平成24年4月～25年3月(原則1年間)
応募資格	言語教育(国語、英語、日本語等)に関して研究開発を行う教員及び教育開発を行う小学校・中学校・高等学校・大学・教育研究団体(学校の学年・教科単位を含む)
助成件数及び金額	助成件数は80件まで。助成金額は1件につき20万～50万円
応募方法・締め切り	・所定の申請用紙に記入の上、研究開発活動についての企画書または実施した実践報告書等の参考書類を添えて、平成23年12月22日(木)必着で、当財団事務局に郵送。 ・申請用紙を希望される方は、直接又は返信用封筒を同封の上、当財団事務局までお申し込みください。 ・この応募要項については、都道府県教育委員会等推薦の場合も同様に扱います。
決定・発表	当財団「選考委員会」にて選考を行い、選考結果を平成24年2月末までに通知。平成24年3月末に銀行振り込みで交付します。
問い合わせ先	財団法人 言語教育振興財団 事務局 〒141-0021 東京都品川区上大崎2-19-9 TEL 03-3493-7340 FAX 03-3493-2174 E-mail:gengo-k@star.ocn.ne.jp

平成23年度版小学校教科書準拠

光村「国語デジタル教科書」 「書写デジタル教科書」



光村の「デジタル教科書」が進化しました!

光村「国語デジタル教科書」は、2005年に発売以来、約3,000校の小学校に導入され、大きな反響をいただいています。新しい「国語デジタル教科書」は、多くの先生方からのご意見を反映して、より使いやすく、授業をより楽しく豊かにするためのツールに進化しました。今まで以上に、授業を強力にサポートします。



「国語デジタル教科書」 学校フリーライセンス 1～6年 各学年 **68,250円** (本体価格 65,000円+税 5%)

「書写デジタル教科書」 学校フリーライセンス 1～6年 各学年 **10,500円** (本体価格 10,000円+税 5%)

※ 学校フリーライセンスとは、校内でご利用になるパソコンの台数を制限しない契約です。
※ 国語と書写のセットでご購入いただき、組み合わせでお使いいただけます。また、国語、書写それぞれでご購入いただくことも可能です。

「国語デジタル教科書」
中学校版は、
2012年春発売予定!

ただいま
「実践活用ガイド」を配布中!

デジタル教科書を活用した実践事例をご紹介します。
体験版と併せて無料で配布しています。

詳しくは下記ホームページまで!
<http://www.mitsumura-tosho.co.jp>

光村図書

小学校 国語教育相談室 通巻No.143 2011(平成23)年9月5日発行 定価126円(税込)
発行人=常田 寛 発行所=光村図書出版株式会社 東京都品川区上大崎 2-19-9 〒141-8675 電話 03-3493-2111
<http://www.mitsumura-tosho.co.jp> E-mail:koho@mitsumura-tosho.co.jp
印刷所=村田印刷工業株式会社 デザイン=mint grafix

個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」に則り、適切な管理・保護に努めてまいります。くわしくは、光村図書ホームページ「光村チャンネル」をご覧ください。
<http://www.mitsumura-tosho.co.jp> 広報誌の配送停止をご希望の方は、光村図書広報部までご連絡ください。